

輸送の 安全確保に 向けて

安全で快適な鉄道運行のために、ハードとソフトの両面から安全確保への取り組みを行っています。お客さまの視点でリスクを把握し、各種安全対策を充実させるとともに、緊急時に迅速・確実に対応できるよう訓練を重ね、二次災害防止を図ります。

人材育成

乗務員の養成と資質管理

当社には、国土交通省の指定を受けた養成所として「鉄道研修センター」があり、ここで多くの運転士・車掌を養成してきました。今後も、お客さまの「安心」「信頼」のために、「安全」を守る乗務員の養成に全力で取り組んでまいります。

● 運転士・車掌の養成

運転士・車掌の養成は、「鉄道研修センター」で所定の学科を学んだ後、各乗務職場に配属され指導運転士・指導車掌のもとマンツーマンで乗務しながら技能を習得していきます。



運転シミュレーターを使った訓練の様子

車掌シミュレーターを使った訓練の様子



運転士養成における現車訓練の様子

● アルコール検知器による確認と健康管理

乗務員は、乗務前に必ず監督者による健康状態の確認を受けるほか、アルコール検知器による確認を徹底しています。また、定期的に健康診断も実施しています。



乗務前にアルコール検知器による確認を行い、監督者が管理を徹底しています

点呼時には監督者が乗務員の健康チェックを行います

安全をつくる意識向上と技術伝承

現場での作業における安全意識向上に向けた取り組みや、設備や施設のメンテナンス作業などに必要な技術を伝承するための取り組みを行っています。

● 危険体感研修

危険体感研修は、墜落制止用器具（安全帯）の装着や高所歩行、高所からの工具落下や感電などの体験をすることを通じて、作業上発生しうる危険なポイントを伝える訓練です。経験の浅い若手社員に対し、事故防止の意識向上を図るために実施しています。



高所歩行体験で高さ約2メートルの狭い通路を歩行する疑似体験の様子

墜落制止用器具（安全帯）を装着した疑似体験の様子

● 競技会・講習会

技術部門では、設備の更新に伴う機器の性能向上により、部品などの故障や劣化による取り替えが少なくなってきた現状を踏まえ、組織の技術力強化やベテランから若手への技術伝承、従業員のモチベーション向上などを目的として、競技会や講習会を定期的実施しています。



車両部門での技能競技会：車輪の打音検査作業を採点している様子

工務部門での緊急時の列車防護訓練：列車見張員による接近する列車の運転士へ緊急停止を合図するための旗振り訓練の様子



電気部門による軌道カート運転訓練の様子



電気部門での技能競技会：電車線の張り替え作業の様子

緊急事態に備えたさまざまな訓練

万が一、不測の事態が発生したときには、冷静かつ迅速・正確に事故の処理ができるよう、日ごろからさまざまな訓練を行っています。

● 運転事故総合訓練

毎年1回、鉄道事故が発生した際の併発事故の防止、負傷者の救護、関係部署への連絡通報、お客さまの避難誘導、復旧作業などを迅速、確実にを行うために「運転事故総合訓練」を実施しています。2021年度は10月22日に現場での処置対応を長津田検車区の車庫内で実施し、社長、安全統括管理者をはじめ鉄道事業本部の各部門、約130名が参加しました。本社では現場と同時並行での情報伝達訓練も実施し、約30名が参加しました。



車内で負傷されたお客さまを担架を使って搬送する様子



車両係員が脱線した車両を復旧させている様子



電気係員が電車線を張り替えている様子



保線係員が線路の歪みを直している様子

● 異常時運転取扱訓練

春と秋の年2回、職場ごとに「異常時運転取扱訓練」を実施しています。駅係員は、対向列車や後続列車を緊急に停止させる列車防護、ポイントが故障した場合を想定した信号係員による手動操作、ホーム案内時の列車緊急停止合図などの訓練を行っています。

また運転士と車掌は、列車防護、負傷者の救護、運輸司令部への連絡通報、お客さまの避難誘導などの訓練を行っています。



白杖ご利用のお客さまを、乗務員が避難誘導している様子



信号炎管を使用して列車を緊急停止させる訓練の様子

● 事故・災害対策本部設置・初動対応訓練

管理職を中心に従業員が参加して、万が一の事故・災害発生時に迅速かつ適切に対応ができるよう、対策本部の設置と初動対応訓練を定期的実施しています。



訓練の様子

● 運輸部初動対応訓練

● 日時：2022年3月26日終電後

● 場所：代官山駅、渋谷駅

● 目的：2021年に他社線で発生した車内傷害事件を受け、国土交通省より対応方針が示されたため、当社についても対応方を見直し、内容の理解と行動の確認を実施

● 概要：車内で刃物を持って叫ぶ不審者を車掌が発見。運輸司令部や駅と連携し、臨時停車後、ホームドアの開閉部とずれて停止した際の避難誘導方についての訓練を実施



刃物を持って叫ぶ不審者の様子



車両ドアとホームドア開口部がずれた状態で降車する様子

● 警察・消防との連携

社内の定期的な訓練だけでなく、警察署や消防署と連携したお客さまの避難誘導などの訓練を職場単位で実施しています。



車両総合事務所での警察・消防・自治体との共同鉄道テロ訓練の様子
消防隊員による救護作業の様子

▶ 警察署、他の鉄道事業者との連携訓練実施状況(2021年度)

日程	場所	訓練名	連携先	
2021年11月29日	渋谷駅ハチ公広場	駅構内粗暴行為対応訓練	渋谷警察署	
2021年11月30日	二子玉川駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	玉川警察署	
2021年11月30日	三軒茶屋駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	世田谷警察署	
2021年12月7日	雪が谷大塚車庫内	列車内粗暴行為対応訓練	田園調布警察署	
2021年12月13日	中目黒駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	目黒警察署	
2021年12月13日	菊名駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	港北警察署・JR 東日本	
2021年12月16日	自由が丘車庫内	列車内粗暴行為対応訓練	碑文谷警察署	
2021年12月16日	蒲田駅構内および列車内	列車内粗暴行為対応訓練	蒲田警察署	
2021年12月18日	大井町駅構内および列車内	列車内粗暴行為対応訓練	大井警察署・荏原警察署	⇒P.17①参照
2021年12月20日	長津田駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	緑警察署・JR 東日本	⇒P.17②参照
2022年1月18日	青葉台駅構内	駅構内粗暴行為対応訓練	青葉警察署	⇒P.17③参照

安全MEMO

サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ関連の課題認識とリスク評価を行い、日々進化する攻撃手法に対応できるよう、技術的、物理的な対策強化を適時行っています。



①列車内粗暴行為対応訓練

- 実施日：2021年12月18日終電後
- 場 所：大井町駅構内および列車内
- 目 的：列車内で発生した粗暴行為に対する初動対応力向上および関係機関との連携強化
- 概 要：不審者が刃物を所持して列車内で粗暴行為を行っている事態を想定。110番通報および列車到着後のお客さまの安全確保など、対応方についての訓練を実施
- 参加者：大井警察署、荏原警察署、東急電鉄 計約50名



駅係員が110番通報を行っている様子



大井警察署、荏原警察署、東急電鉄、訓練参加者一同

②駅構内粗暴行為対応訓練

- 実施日：2021年12月20日
- 場 所：長津田駅構内
- 目 的：不審者発見時の初動対応能力向上および関係機関との連携強化
- 概 要：他社線の列車から降りた不審者が刃物を所持して駅構内のお客さまに粗暴行為を行っている事態を想定。お客さまの安全確保などの対応方についての訓練を実施
- 参加者：緑警察署、JR東日本、東急電鉄 計約30名



警察官が不審者に対応している様子



警察官が不審者を取り押さえている様子

③駅構内粗暴行為対応訓練

- 実施日：2022年1月18日
- 場 所：青葉台駅構内
- 目 的：不審者発見時の初動対応能力向上および関係機関との連携強化
- 概 要：不審者が刃物を所持している事態を想定して110番通報。お客さまの安全確保などの対応方についての訓練を実施
- 参加者：青葉警察署、東急電鉄 計約30名



警察官が不審者を取り囲んでいる様子

安全MEMO

異常時用名札ワッペン

従業員が、通勤時など当社線を利用中に事故や災害に遭遇した際には、この「名札ワッペン」を左胸などに貼り付け支援活動を行います。お客さまや外部の関係者に対して支援者が当社の従業員であることを明示し、円滑な支援活動ができるよう備えています。



震災への備え

2011年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえ、事業継続計画を構築するとともに構造物の耐震補強工事に取り組んでいます。

当社では原則、震度4以上の地震が発生した場合には、全列車を一旦停止させた上で、徐行運転や施設等の点検などにより安全を確認します。確実に安全を確保した上で、早期の運転再開ができるよう努めていきます。

また、大震災の影響を踏まえ、事業の継続力の向上によりお客さまの安全確保と災害に強い東急線を目指します。

● 事業継続計画（BCP）の継続的改善

大規模地震や災害発生時にお客さまの安全を確保することを優先とし、適切な避難誘導や正確かつ迅速な情報提供、早期の運転再開に資するように事業継続計画を構築しています。今後も減災対策の推進や災害を想定した訓練の実施により事業の継続力を高めていきます。

● 代替通信手段の設置

大規模災害発生時に通常の通信手段が使用不能となった場合の通信手段として「管内間電話」「JR電話」「衛星電話」「衛星無線」「警視庁緊急時直通電話」を導入しています。



衛星無線通話訓練の様子

● 帰宅が困難なお客さまへの対応

大規模地震などの災害が発生した際、帰宅が困難になったお客さまへの対応として、保存食、簡易ブランケット、簡易トイレが全ての駅に確保されており、飲料水については、災害対応飲料自販機を設置しています。

また、一時滞在施設へ移動されるまでの一時的な待機場所として、点検が終了した駅構内の一部をお客さまに提供し、警察・消防と連携を図りながらお客さまの安全を確保できるよう努めます。その他、行政機関主催の災害対策会議などへ積極的に参加し連携を図っています。



保存食



簡易トイレ



簡易ブランケット



備蓄飲料水



災害対応飲料自販機



保存の様子

ディスプレイに記された「災害救援自販機」が目印